

令和7年度（2025年度）第3回公立大学法人熊本県立大学経営会議
議 事 録

1 日 時：令和7年（2025年）10月15日（水）午後1時58分～午後2時24分

場 所：公立大学法人熊本県立大学大会議室

出 席：委員（理事長） 黒田 忠広

委員（副理事長（学長）） 堤 裕昭

委員（理事（事務局長）） 梅川 日出樹

委員（理事） 櫻井 一郎

委員 田中 稔彦

委員 永田 佳子

委員 松岡 隼人

委員 横田 桂子

理事（副学長） 鈴木 元 *オブザーバー

監事 吉川 榮一

事務局：久保田次長、柳田総務課長、木山企画調整室長、堀口教務入試課長、
國武学生支援課長、武末図書館事務長、木村デジタルイノベーション推進セン
ター事務長、井上監査室長、山本総務課総務班長、寛総務課財務班長、
金子企画調整室主幹、鹿瀬島企画調整室参事、松本教務入試課参事、
福屋総務課財務班主任主事、太田総務課総務班参事、小野企画調整室員

2 開会（進行：久保田事務局次長）

3 理事長あいさつ

4 議題（議長：黒田理事長）

（1）審議事項

①半導体学部（仮称）の理念、人材養成の目的、3つのポリシー（案）について

事務局及び学長から、資料1に基づき、半導体学部（仮称）の理念、人材養成の目
的、3つのポリシー（案）について、説明があった。

審議の結果、案のとおり承認された。

[質疑]

（田中委員）新学部設置にあたって、熊本県立大学に設置する意義をご教示いただきた
い。

（学 長）新学部については、半導体を地域の人々の生活にいかに役立てるかという
ところの知識、技術、役立て方の教育を行うことが大きな柱としてあり、
社会適応の分野の科目も用意されている。また、半導体をいかに使うかとい
うことも重要であり、そういったことを行う TSMC 周辺の企業に学生が就
職して、地域社会に貢献していくことを狙っている。

(田中委員) (履修モデルの)「スマートマテリアル」の趣旨をご教示いただきたい。

(理事長) マテリアル(素材)は日本が大変強く、世界でも50%を超えるシェアを持っている。その理由は人材にあり、日本のこれまでの化学、材料工学を中心とした教育の成果が表れている。マテリアルは製造・組立と非常に密接に関連していることから、その製造・組立の場として選ばれた熊本及び九州の人材育成というのが、これからもマテリアルが日本が強いための必要条件になると思われる。このように特にマテリアルは重要なので、その教育は産業界とアカデミアが連携して人材育成を行うことが重要である。

(田中委員) 将来的にいろんな地域との交流であったり、接点を増やすような方向性のお考えはあるか。

(学 長) 将来的には大学院や共同研究施設を設置して、企業と共同して開発していく等が必要になってくると思われる。

(理事長) 福岡半導体リスクリングセンターでは、これまでは30代~50代の働きながら学び直しをする人を対象にサービスを提供してきたが、今後は大学や高校との連携も視野に入れ、サービスを拡大する議論が始まっているので、そういったところとの連携も重要になってくる。

(2) 報告事項

①令和6年度財務諸表の承認及び損失の処理について

事務局から、資料2に基づき、令和6年度財務諸表の承認及び損失の処理について報告があった。

5 その他

- 次回経営会議は、令和7年(2025年)12月17日(水)午後2時開始予定であることを確認した。

6 閉会

以 上